



西南学院大学・

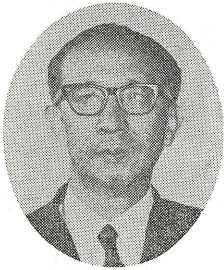
図書館報

No. 60

1974年4月4日発行

福岡市西区西新6丁目

西南学院大学図書館



新入生への挨拶

図書館長 木村 毅

最近読んだものに、こ
ういうのがありました。

その筆者は、「講義がつまらない」といって教室
に出ない学生が多い理由をあれこれ分析した上
で、現行の講義制度や筆記試験制度について、次
のように言っています。これらの制度が始まった
のは印刷術の発達と関係があり、それによって情
報量が多くなったために、それまでの対話・論争
形式に代って、一定の順序に従って内容を並べて
話し、それを筆記させるというレクチャー方式を
とるようになったのは、15世紀末に成立したチ
ュードル王朝になってからのことであり、また、「
ケンブリッジ大学で口頭試験に代って筆記試験が
行なわれるようになったいきさつは、印刷術のお
かげで本が大量に作られ、学生個々人が本を読む
ことによって直接知識を獲得することが便利にな
ったため、いいかえれば、教師の方で個々の学生
の読書や研究に伍してゆけなくなりだしたので、
教授した範囲のことでテストして優劣をきめると
いう姑息な手段が生じた……（クリスファー・ワ
ーズワース）」のであり、「教師側は、そもそも
このレクチャーに踏み切った段階から、学生より
完全優位に立つことはできず、すでに追われる身
になってゆき、守備範囲をせばめたタコ壺式専門
分化が進められる」ようになったのだといってい
ます。（図書館短大助教授小野泰博氏「現代の学
生と読書」、文部省編『厚生補導』89号所収）わ
れわれ教える側にとっては、いさかか耳の痛い話
です。しかし、これもよく考えて見ると、必ずし
も全般的に当たっているとはいえないようです。
これは、それまで数少ない写本が僧侶や学者の独
占物になっていた時代から、印刷術の発達によっ
て学術書の非独占化が進展する過程を描写したも
ので、今日でももちろんそういう一面もあるには
ありますが、むしろ今日では、出版物の氾濫と図

書館の普及・充実に拘らず——あるいは反対
に、「その故に」といった方がよいのかも知れま
せんが——一般に学生が余り本を読まなくなった
ことの方が、問題となっているといつてよいでし
ょう。

しかし、この点も必ずしも当たっていないの
ではないかと思います。今日の学生は、「自分の専
攻分野の図書では、読むべき図書を知っている」
（大阪大学図書館閲覧課長上島順二郎氏「学生と
図書館」、前掲誌所収）といえるようですし、そ
の点では戦前の学生以上といってもよいでしょ
う。一つには講義そのものも戦前に比べて懇切丁寧
になり、やたらと参考文献を挙げて説明する例
が多いようですが、また図書館自体も戦前には想
像もされなかったような大幅の開架制度を採用す
るのが普通になり、その上講義担当者別に指定図
書まで備えるようになり、ややオーバーにいえば
「至れり尽せり」の状態になっているからでしょ
う。このことがかえって学生の読書態度の自主性
・積極性をそこななければ幸いだ、と思ってい
るくらいです。もっとも、われわれの図書館がそ
れほど「至れり尽せり」であるかどうかについて
は、諸君の判断にお任せするほかありませんが。

新入生諸君は、今までに既に高校図書館でオー
プン・システムには慣れていることと思います
が、西南大図書館もオープン・システムをかなり大幅
に取り入れています。本館だけの蔵書数約
23万冊のうち12万冊近い図書がオープンになって
おり、2・3・4階の学生閲覧室内の開架書架に
配列されていますので、必要な本を自由に取り出
して読むことができます。こういうシステムの利
点を最高度に活用して、授業や学習に必要な参考
書はもちろんのこと、それ以外にも、人生を深く
考え、教養を高めるために必要な本を、自ら積極
的に探し出して読んでゆく努力をしてほしいと思
っています。（経済学部教授）

特集

新入生のための読書案内

— 各教授に聞く —

基督教学

八田 正光 助教授

西南大に在学中に、少なくとも一度は、聖書を通読していただきたい。古典と称されるものは、単に時代的に古いというのではなく、時代を越えて常にそれぞれの時代に語るべきものをもっている、と言うことです。現代と今日にいたる文化を究めようとしているわれわれは、この文化の中に浸透し、あるいは影響を与え、あるいは闘って来た聖書の位置を無視することはできません。

聖書は、旧約聖書と新約聖書から成っています。旧約は紀元前五百年代から百年代にかけて（その資料は古くは紀元前千年以上のもの）、今日の文書の形をなすにいたりしました。新約は、紀元一世紀の中葉から二世紀の前半に記されたものです。このように古い文書ですから、その表現様式が、今日のわれわれに馴染みのない箇所が少なくありません。われわれは、その表現様式の奥底にある意味をつかまねばなりません。古典と言われるものは、如何なる本でも読むのに忍耐の要するものです。

図書館には、聖書辞典、聖書全体の概説的なもの、聖書各文書に関する解説・註解書等が備えつけられています。難解な箇所遭遇した場合、これらを利用されることをすすめます。しかし、とにかく、みずからコツコツと読み続けることです。そこで読むコツが体得されるでしょう。

中国文学

樋口 進 教授

諸君が学ぶべき人文科学関係の科目には、基督教学、哲学、論理学又は倫理学、歴史学（日本史学、東洋史学、西洋史学）、美術史、日本文学、外国文学（中国文学、西洋文学）、音楽などがある。

さて、ここでは上記のうちの中国文学をとりあげ、二三の関係書籍を示し、諸君が中国文学を受講する場合の手引きとしたい。もっとも中国文学には古典を扱う中国文学(1)と、現代の文学を扱う中国文学(2)とがあり、ここに紹介するのは主として後者についてである。諸君の手に入り易い本、しかも日本語で書かれたものということを含頭において選んでみると、次のような書籍がある。

小野忍「中国の現代文学」東京大学出版会

相浦晃「現代の中国文学」NHKブックス

竹内実「現代中国の文学」研究社叢書

いずれも現代の中国文学を文学史的に概観したものであり、現代の中国文学がどんなものであるかの実体と諸様相をある程度把握することができると思う。

地 学

唐木田 芳文 教授
一般教育とは

近ごろ「日本沈没」で、日本列島の行く末が話題となった。最近の目ざましい科学技術の進歩はわれわれに豊かな生活を与えはしたが、核兵器の出現以来、エネルギー危機、公害問題などに直面して、人類そして地球の将来を憂える声が強くなってきた。科学がこのような進歩した段階では、どの学問分野においても、これまでのような「真理のために真理を探究する」だけの「たれ流し」は許されず、発見された真理が、人間・社会にとって「良い」影響を及ぼしているのか、あるいは「悪い」結果をもたらしたかを、正しく判断し、もし悪影響がわかったならば即座に処置するところまで、科学者および社会が責任をもつべきだと思う。それには、各自が自分で考え、自分で判断し、行動していかなければならない。そういった能力を養成していくのが「一般教育」の学習である。

エネルギー不足で深刻な冬を過ごしているイギリスで、「役に立たない情報」という本が飛ぶように売れているという。今のような時勢だからこそ、われわれも「無用の用」をもっと大切にしたいものだ。

こういった意味で、科学史の勉強と、次の本をおすすめする。小林・岡、地学史；毛沢東、実践論・矛盾論；竹内・上田、地球の科学；ホームズ（竹内訳）、一般地質学。

英 語

大 森 衛 教授

語学は、英語に限らず、なんらかの意味において、本来役に立つべきものであり、あるレベルに達すると特技と称しうる。しかし、大学卒業時においても役に立つ英語を習得している人は案外多くないのではなからうか。言語はもともと聴く、話すに始まるのであるが、多くの場合、正常な英語学習を受験勉強が曲げている。だから、この欄は読書法を説く場であるけれども、新入生諸君には「文字言語へのとらわれを早く脱せよ」とすすめたい。強いていうならば、現在はテープ、テレビ、ラジオとテキストとの組み合わせ学習が至便なので、この方向の「読書」を試みると有効であろう。聴く・話す領域での多少の自信は、読む・書く領域への新たな興味をよび起こすだろうからである。

英語・英文学を専攻する諸君にもこのような学習法が当然必要だが、その場合、読む・書く領域の習練までも絶対必要であることは銘記されたい。そのためには多読

が必要であるが、専攻科目についても一年次からできるだけ底辺を広げる努力を期待する。英米の語学・文学はきわめて多岐にわたっているが、専攻科目を念頭において幅広い読書が続けるならば、おのずから興味の焦点が定まってくるであろう。

フランス語

中村 栄子 教授
フランス語とフランス文化

ひとつの外国語をマスターすることは、そのことばの祖国の文化を十分に摂取することです。これはみんなが知っていることですが、フランス語の勉強に当たるとくにこの点を銘記する必要があります。完備したLL施設、新進気鋭の教授陣をもって、至れり尽くせりの授業をおこなっても、学生ひとりひとりのなかにフランス文化に関する知識の樹が育つてゆかない限り、習ったことばは風に吹き散らされる枯葉にすぎなくなります。その知識の樹を育てる場所が図書館なのです。早くフランス語の原書がどんどん読めるようになってほしいのですが、初歩から始めるのにそれは無理な注文です。それで翻訳や日本語の著書を大いに読んでほしいと思います。あれこれ乱読しているうちに自ら方向がきまってきます。まず全般的な手引として月刊雑誌「ふらんす」や「基礎フランス語」を読んで下さい。語学と文化双方に関する有益な知識が得られます。それから19世紀、20世紀の文学作品——これはフランス人の生活や社会を知るためにも好個の読みものです。歴史や社会に関する専門的な著作も勿論読まなければなりません、旅行記や案内書のたぐいでもバカになりません。語学に王道なし。そしてどんな知識でも役に立つのです。

児童教育学

村上 寅次 教授

羽仁もと子「幼児を発見せよ」(羽仁もと子選集3) 婦人の友社
H・リード「平和のための教育」(岡郷博訳) 岩波現代叢書
A・シュヴァイツェル「自叙伝—わが生活と思想より」(竹山道雄訳) 白水社
ヘレン・ケラー「自叙伝」(三上正毅訳) 教文館
R・ベネディクト「菊と刀—日本文化の型—」(長谷川松治訳) 現代教養文庫
八木重吉「信仰詩集—神を呼ぼう」 新教新書
勝田守一・中内敏夫「日本の学校」 岩波新書
ルソー「エミール」(今野一雄訳) 岩波文庫 全3冊
ペスタロッチ「隠者の夕暮・シュタンツダより」(長田新訳) 岩波文庫
倉橋惣三「フレーベル」(倉橋惣三選集所収) フレーベル館
フレーベル「自伝」 岩波文庫
ジョン・デューイ「学校と社会」(宮原誠一訳) 岩波文庫
「民主主義と教育」(帆足理一郎訳) 春秋社
「経験と教育」(原田実訳) 春秋社
アンデルセン「童話集」(大畑末吉訳) 岩波文庫全10冊

ストウ夫人「トムじいやの丸木小屋」 岩波少年文庫
サン・テグジュペリ「星の王子さま」(内藤濯訳) 白水社
ルナアル「にんじん」(岸田国土訳) 岩波文庫

その他、旧・新約聖書、ギリシャ・ローマ神話、論語・孟子など。

商 学

古林 輝久 教授
商学・経営学・会計学

三つの学問は発生史的に見ましても極めて密接な関係を持っております。とくに近年の科学技術の革新的発展により、学問領域も拡大・深化し、いわゆる境界領域科学も著しく開発され、社会学・心理学・人類学・経済学・法学・政治学など諸科学の関連性を高めてきております。それだけに、商学部の学生諸君も自己の専攻分野の学科のみでなく、一・二年生の時代には基礎的諸科学を幅広く読書し、勉強してほしいと思います。

また、国際化・情報化時代においては、社会科学の勉強にも、語学はいうに及ばず、コンピューターの知識は今後ますます常識化してくると思います。その意味でも語学・数学の勉強もやりなおしてほしいと思います。

いずれにせよ、これからは単に自己の専攻領域さえ勉強すればよいという時代ではなくなってきておりますから、三・四年生で自分は何を専攻するのかという目標を設定しつつそのための広範囲にわたる基礎的知識の集積に一步一步着実に努力してほしいものです。

大学とは勉強の仕方を教えるところであり、勉強そのものはあくまで自分自身で行うものと心して下さい。

Druch Leiden Freude.

(苦難をつき抜けて歓喜にいたれ!)

経 済 学

平岡 規正 教授
経済学は数学である

経国の至誠にあふれ、済民の激情にもえて、長期的展望に立つヴィジョンを あげつらう人々のために経済学はあるように思われるが、科学としての経済学は、あまり調子の高いものではなく、まことに、こまかいものである。

「The marginal rate of substitution of X for Y」にはXのYに対する限界代替率という訳が定着しているが、正確には「XによるYの限界代替率」と訳すべきであると気がつくほどの緻密な神経が、経済学の学習には要求される。

天下国家を論じることとは、大いに結構である。だが経済学的に論じるときは、足もとをたえず見つめて、天をとおぐ態度が必要であろう。

経済学でプロになるためには、なによりもまず、数学的に自己を訓練すべきである。

ソ連の大学で一番数学をきたうのは、経済学部であるときいている。

それで、必読書としてR. G. D. アレン著、高木秀玄訳「経済研究者のための数学解析」(上・下)、高橋健人著「差分方程式」をあげておく。

法 学

大内 和臣 教授

我々は民主国家、日本の市民である。日本が民主国家である限り、我々は自由である。我々が自由である限り、我々自身を裁く者は我々である。我々が、良く裁き、良き判断を下す為には、我々自身が賢明でなければならない。人は生れながらにして自由であるが、生れながらにして賢明ではあり得ない。民主主義の世界では「The people shall judge.」と云われてきた。その賢明な“Judge”を生む為に法律学がある。

法学教育は、法を作り、解釈・適用し、それを更に改めることすべてを教えることである。何が人類にとどこおりなく正義をもたらし、世界を平和にし、人間を幸福にし、社会に秩序を保障するかを追求する為、諸君は法と関わりのあるすべての教養を身につけ関連学問を探求し、かくして単なる法律屋でなく、法律家となる為に、広く遠い学問研究の道を歩み続けなければならない。

推薦書 渡辺洋三「法の常識」有斐閣

田中英夫「実定法入門」東大出版会

早川武夫「外国法の常識」日本評論社

イエリング「権利のための闘争」(岩波文庫)

Pound, An Introduction to the Philosophy of Law. (Yale University Press)

新入生のための書架案内

課長補佐 杉本 善夫

この図書館は蔵書約23万冊を数え、諸君の大学生活の一部となることを願い、そのことによってより充実した人生の一助になるよう祈っています。別に準備してある「利用案内」と共にごらんください。

1階

学習室——岩波文庫、岩波新書、岩波全書、中公新書、保育社カラーブックス、講談社現代新書、三省堂新書、東洋文庫・辞書・新着書など、閲覧希望者は備付のインタフォンで請求してください。

目録カード——開架制の図書館でも図書利用の効率化のために、また閉架図書の利用のために必要です。

日刊新聞——朝日・毎日・西日本・西日本スポーツ等約10種類。

2階

指定図書(全分野)及一般教養関係——総記・哲学・心理学(除幼児・児童心理)・倫理学・宗教・歴史・伝記(一般)・地誌・紀行・数学・物理学・化学・天文学・地学・生物学・植物学・動物学・医学・薬学・体育・演劇・娯楽・語学(除英米仏)・文学(除英米仏)・および関係雑誌。

3階

商・経図書関係——経済・経営・財政・統計・社会・民俗・風俗習慣・国防・軍事・工学・工業・産業・会計・交通・通信および関係雑誌。

4階

文・法・児童関係——幼児、児童心理・政治・法律・社会病理、社会事業・教育・家事・美学、芸術理論・美術史・彫刻・絵画・版画・写真・工芸・音楽・語学(英米仏)・文学(英米仏)・児童文学および関係雑誌。

Japan Studies Collection・および福岡アメリカンセンター寄贈図書。

5階

閉架図書——当館のような開架式図書館では全部の図書を開架し利用者の便をはかりたいが、量が多いことがかえって不便になるおそれもあるので、利用度の低い研究書、史料集、高価本、貴重本、和装本および洋書の大部分がありますので、1階の目録カードによって「館内閲覧票」をカウンターで貰って書名、請求番号など記入し係員に請求してください。

その他内外国雑誌のバックナンバー等もありますので同様の手続きで利用できます。

なお、不明の点はカウンターでお尋ねください。

文献製写について

- 本館は、教育または研究の用に供するために文献複写を引き受けます。
- 文献複写は、図書および教科書を行ないます。
- 複写を依頼される場合は、所定の申込書に所要事項を記入し、料金を添えて受付係へ申込んでください。

サイズ	単 位	電子リコピー
A 5 以下	1 枚	1 0 円
B 5	1 枚	1 5 円
A 4	1 枚	2 0 円
B 4	1 枚	2 5 円

奉仕係より

新入生のみなさんご入学おめでとうございます。奉仕係員一同は、みなさんが図書館を利用することにより、みなさんの勉学と学問が大いに深まる様援助致します。

○ 本館は、開架閲覧室と閉架閲覧室と二つに区分されます。みなさんは、自分の求める専門図書、雑誌を、それぞれ学部開架閲覧室で直接見ることが出来ます。

しかし、洋書や貴重な文献の多くは、閉架図書として書庫の中に納めております。この閉架図書を利用することは、勉学上大変有益です。検索には目録を大いに利用してください。

○ 図書館利用には、別に配布される「図書館利用案内」を熟読するように、それに、図書分類表や、諸手続、行事等を詳しく記載しております。不明な点は、遠慮なく係員に尋ねてください。(H.N.)